

カラマツ大径材の流通

菅野 弘一

はじめに

道林務部で実施しているカラマツ素材・製材流通調査によれば、昭和63年度に生産されたカラマツ大径素材（径級30cm上）の数量は9.4千m³でカラマツ素材生産量の0.8%でしかありません。数量的には前年度より30%近く少なくなっています。しかし、今後カラマツ大径素材の生産量が増加して行くであろうことは、径級別素材生産量の推移（表1）および一般民有林の齢級別蓄積量の推移（表2）からみても推測は出来ると思います。

今後、生産量の増加が予想されるカラマツ大径材ですが、現在は数量的に少ないこともあって、その流通状況はわかっていませんし、品等別、径級別価格など、一般的な流通市場も形成されていません。そこで、カラマツ大径材の流通の現状を

知る目的で、上記カラマツ流通調査と並行して、カラマツ大径材（径級30cm上）の流通について簡単な調査を行ったので報告します。

調査対象企業と期間

昭和63年4月～平成元年3月までの1か年間に、カラマツ素材の生産およびカラマツ原木を消費した企業（素材521社、製材137社）の中から、取扱量の多い企業（素材172社、製材74社）を抽出して、大径素材のアンケート調査の協力をお願いしました。

調査結果の概要

1) カラマツ大径素材の生産量と用途別出荷量アンケートの回答を預けた企業は、素材69社、

表1 径級別素材生産量の推移

単位：数量 千m³、比率%

径級 cm 年度	～7		8～13		14～18		20～28		30上		合計	
	数量	比率	数量	比率	数量	比率	数量	比率	数量	比率	数量	比率
59	162.4	14.7	429.7	38.9	369.1	33.4	131.3	11.9	11.6	1.1	1,104.1	100
60	201.1	16.8	464.1	38.4	395.4	32.7	137.0	11.3	11.6	1.0	1,209.2	100
61	150.2	13.8	441.7	40.7	370.2	34.1	112.7	10.4	10.8	1.0	1,085.6	100
62	152.5	14.8	393.4	38.2	348.4	33.9	121.6	11.8	13.0	1.3	1,028.9	100
63	137.5	12.4	394.9	35.5	412.0	37.0	159.2	14.3	9.4	0.8	1,113.0	100

表2 一般民有林における齢級別蓄積量の推移

単位：数量 千m³、比率%

齢級 年度	Ⅲ		Ⅳ		Ⅴ		Ⅵ		Ⅶ		Ⅷ以上		合計	
	数量	比率	数量	比率	数量	比率	数量	比率	数量	比率	数量	比率	数量	比率
59	7,157	16.2	11,064	25.0	9,754	22.0	8,621	19.5	5,219	11.8	2,420	5.5	44,235	100
60	6,014	12.9	11,661	25.1	10,542	22.7	8,902	19.2	6,574	14.1	2,778	6.0	46,471	100
61	4,690	9.7	12,352	25.5	11,101	22.9	9,356	19.3	7,576	15.6	3,401	7.0	48,476	100
62	3,603	7.1	12,575	24.9	11,831	23.4	9,892	19.5	8,272	16.4	4,380	8.7	50,553	100
63	2,821	5.4	11,895	22.6	13,198	25.1	10,228	19.5	8,605	16.4	5,787	11.0	52,534	100

表3 カラマツ大径材(30cm上)の所有林野別素材生産量

区分	国有林	道有林	市町村有林	会社有林	個人有林	その他	計
数量(m ³)	647	4	247	1,420	3,281	160	5,759
比率(%)	11.2	0.1	4.3	24.6	57.0	2.8	100

表4 大径素材の用途別出荷量

区分	製材	坑木	パルプ	電柱	杭丸太	その他	計
数量(m ³)	3,718	50	514	100	1,036	56	5,474
比率(%)	67.9	0.9	9.4	1.8	19.0	1.0	100

製材30社で回収率はいずれも40%と低いものでしたが、所有林野別素材生産量について表3に示しました。林務部の流通調査によれば、昭和63年度の大径素材の生産量は9.4千m³と報告されていますので、今回調査の生産量5,759m³は全通生産量の61%です。これを所有別にみますと、個人有林と会社有林いわゆる一般民有林からが80%以上になっています。また素材の用途別出荷量を表4に示しました。昭和63年度の全道流通調査では製材用は54%ですから、今回調査の68%は大径材ということで比較的高いと言えます。次は杭丸太で、19%出荷されています。この杭丸太は長尺・大径材を必要とする地下鉄工事などに使用されています。一方、パルプチップ用にも9.4%出荷されています。

2) カラマツ林分の枝打ち

今回の調査で大径材の生産とは別に、良質大径材生産に欠かせない枝打ちについて、簡単な設問をしましたので、その結果を表5に示しました。

表5 定期的に枝打ちされた林分から生産された素材量

区分	道有林	市町村有林	会社有林	個人有林	その他	計
数量(m ³)	4	1,600	2,040	6,100	20	9,764
比率(%)	0.04	16.4	20.9	62.5	0.2	100

定期的に枝打ちされている林分から、素材を生産した企業が16社(23%)あり、その材積は9,764m³で、その83%が一般民有林です。一方、定期的に枝打ちをしている林分を所有している企業は23

社(33%)ありました。

3) カラマツ大径材の製材と用途別出荷量

製材工場が入手した素材について表6 - ア~エに示しました。所有別では一般民有林が75%です。径級別では、30cmがほぼ50%で、大径材といっても30~34cmの径級で90%を占めています。また、長さ別では3.65m材が75%、2.80mが6.8%です。

表6 製材用原木として入荷した道産カラマツ大径材

ア) 所有林野別素材量

区分	国有林	道有林	市町村有林	会社有林	個人有林	その他	計
数量(m ³)	62	163	230	479	3,684	970	5,588
比率(%)	1.1	2.9	4.1	8.6	65.9	17.4	100

イ) 径級別素材量

径級 cm	30	32	34	36	38	40	42	44	計
数量(m ³)	2,707	1,308	856	401	190	81	15	30	5,588
比率(%)	48.4	23.4	15.3	7.2	3.4	1.5	0.3	0.5	100

ウ) 長さ別素材量

長級 cm	~150	~180	~280	~300	~365	~400	~600	計
数量(m ³)	221	335	443	376	4,148	5	3	5,531
比率(%)	4.0	6.0	8.0	6.8	75.0	0.1	0.1	100

エ) 品等区分素材量

区分 品等	数量 m ³	比率 %
I	175	3.6
II	76	1.5
III	174	3.6
込み材	4,471	91.3
計	4,896	100.0

なお、径級別の数量計と長級別の数量計が一致していませんが、これは長級別個表に未記入のものがあつたことによります。一方、一般市況では品等区分された取り引きはありません。アンケート調査でも91%とその大半が品等込み材ですが、品等区分で取り引きされているものも若干あります。用途別出荷量を表7に示しました。現在のカラマツの製材市場から、大径材でも梱包資材用が多

表7 大径材から製材したものの用途別出荷量

用途 区分	家具用	建築用	梱包材	ドラム材	パレット材	その他	計
数量(㎡)	170	727	1,206	17	1,433	284	3,837
比率(%)	4.4	18.9	31.4	0.5	37.4	7.4	100

く69%を占めており、建築、家具用は23%にしすぎません。

4) カラマツ大径材の今後の需要見通し

一般住宅用建築材としての今後の見通しについて聞いてみました。

ア．エゾ・トドマツと价格的に競合できる

4社

イ．エゾ・トドマツより価格を下げれば
需要がでてる

8社

・その場合何%下げれば良いか

5~10% 4社

15~20% 3社

25~30% 1社

ウ．需要の見通しがたたない

15社

・コメント

外材輸入が現状のままであれば
ねじれなどイメージが悪い

エ．大径材のより付加価値の高い用途としてどの様な部分に使えると考えますか

・コメント

家具用材, 化粧用材, 建具用材
住宅用内装材

家具, 建具, 内装材として赤味, 柾目
(目の細かいもの), 無節材が高値取り
引きされるので, 枝打ちなどを行い元玉
を育てる必要がある。

などの意見がありました。

おわりに

今回のアンケートは調査件数も少なく、また、大径材の流通も少ないため、十分なものではありませんが、今後のカラマツ材利用に少しでも役立てば幸いです。

最後になりましたが、アンケート調査にご協力くださいました各企業の皆さん、および各支庁の林産担当の皆さんに心から感謝申し上げます。

(林産試験場 経営科)